

2025/06/29

変わりゆくふるさと

山里 将之

みなさん、こんにちは！
貝塚聖書教会の山里将之です。

6/2（月）-4（水）、2泊3日でふるさと（敢えてひらがなで記しています）沖縄を訪れました。今回は実家の諸作業、事務仕事メイン、移動も私のみの単身だったので、感覚としては帰省というよりも出張に近いものがありました。本当に限られた家族（母と妹家族）にしか会える時間がなく、また事務仕事メインでしたのでレンタカーなども借りず、空き時間にせいぜいモノレールで移動できる範囲でちょっと散策する、くらいのものでした。いや、本当に出張だ…。

そんな短期間ではありましたが、それでも、それなりに変わりゆくふるさとを実感させられました。前回はちゃんと帰省出来ましたが、それが2022年の事だったと思います。3年ぶりになるわけですが、国際通りを歩くと聞こえてくるのはほぼ英語と中国語、時折韓国語、また東南アジアのことば。もともと文化的にも歴史的にも日本離れした沖縄（実際、1973年まではアメリカでした）ですが、今回の「出張」で感じたのはさらにレベルアップしたかのような異国感。産業の大部分を観光によって支えられる沖縄にとって、海外からの来訪者の増加は経済的には嬉しい反面、ふるさとの変わりように、どこことなく寂しさのようなものも感じてしまうのは、それなりに年をとったせいかも、と我ながら感じさせられました。

もうひとつの寂しさは、私の生家をいよいよ処分したという事も。祖先伝来の古い敷地で、維持管理の限界からいよいよ手放す決断をしたのも、3年前の2022年。さすがに全部を売り払ってしまうと本当に寂しいので、現代の住宅に見合った程度の区画を一部買い戻し、そこに新たな「山里家」を建築予定。今回の「出張」で、更地になり、一部がすでに別の建物が建っている“元”生家の敷地を目撃しました。これもまた、ちょっと複雑な変化。

変化するという事は、当然、それまでのあり方を捨てるという事でもあります。寂しさがあるのはある意味当然かも知れません。でも、新しい営みへの転換でもあり、成長のチャンスでもある。なにしろ成長とはつまり、昨日から今日、今日から明日へと、変化する事の連続、積み重ね、だからですね。

変わりゆくふるさと、変わりゆく生家に、ちょっと寂しさを感じつつも、変わる事無く私たちを支え、護り、導き続けてくださるイエス様の愛のうちに、新しく歩み始めたいと思われました。

イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。

ヘブル人への手紙 13章8節、聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会

※今回は写真はありません…文字だけで失礼致します…